

報告事例 3

夏秋トマトを中核とする競争力の高い野菜産地の育成

計画年度：平成30～令和2年度



夏美人
(白沢トマトセンター)



尾瀬トマト
(片品トマトセンター)

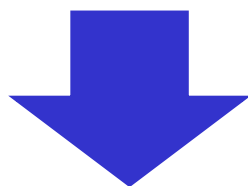
利根沼田農業事務所 普及指導課

課題設定の背景と理由

課題設定の背景

管内トマトは生産者200名余、販売額16億円のJA重点品目

- ・管内産地は広域に渡るため、気象条件、生産規模、栽培技術の地域差が大きい。
- ・経営が安定していることから新規栽培者が多いため、技術の平準化が必要。
- ・近年の温暖化や不安定な天候により、果実品質の低下が問題となっている。
- ・農業所得の向上には規模拡大を図り、作業の省力化(自動化)が必要。



課題設定の理由

当地域を競争力の高い野菜産地へ育成するため、重点品目である夏秋トマトの生産を強化することが必要。

主な推進課題と解決手法

1. 雨よけトマト産地ビジョン達成の支援

【支援対象：生産者（トマト生産部会）・JA・各市町村】

- ・ 各種会議及び講習会を通じて技術提供や提言・助言を行う。

2. 担い手の定着支援

【支援対象：新規栽培者】

- ・ 新規トマト栽培者を対象としたセミナーや技術交流会を開催し、技術向上と平準化を図る。
- ・ 新規トマト栽培者の募集を行い、生産拡大を図る。

3. トマトの果実品質向上とGAP導入支援

【支援対象：生産者】

- ・ 障害果の発生を抑制し、品質の安定化を図る。
- ・ GAP手法の活用により経営の改善を図る。

4. トマト規模拡大のための省力化技術の普及

【支援対象：生産者】

- ・ 育苗省力化技術(自動かん水)の普及を図る。
- ・ 養液土耕栽培技術の開発と導入を支援する。

到達目標 (目標年次の姿)

到達目標（目標年次の姿）

目標項目	現状（H29年）	H30目標	R 1 目標	R 2 年目標
J A トマトセンター販売額(百万円)				
白沢トマトセンター	851	880	1,026 [908]	1,026 [937]
片品トマトセンター	790	840	920 [880]	920 [900]
新規トマト栽培者ネットワーク 組織数（団体数）	0	0	1	1
トマト新規栽培者数（人/年）	-	-	-	2

注） [] 内数値は、計画作成時の数値。

活動経過及び結果

1. 雨よけトマト産地ビジョン達成の支援

【活動経過】

◆トマトセンター運営支援

- ・ トマト生産者に対する技術情報の提供、JAに対する提言・助言
- ・ 産地パワーアップ事業により平成29年度に片品トマトセンター、30年度に白沢トマトセンターに最新選果機を導入



白沢トマトセンター

1. 雨よけトマト産地ビジョン達成の支援

【活動結果】

◆トマトセンター運営支援

- ・ 最新選果機により処理能力が向上
規模拡大、担い手確保による増産への対応が可能に
- ・ トマトセンター販売額（平成30年度）過去最高に
白沢トマトセンター：1,026百万円
片品トマトセンター：920百万円
- ・ 産地戦略ビジョンにともなう産地の取組が進展
生産拡大や担い手支援、省力化技術導入など産地の具体的な取組が進展

2 担い手の定着支援

【活動経過】

◆ 新規栽培者への重点指導

- ・ 定期巡回、栽培マニュアル、チェックリストに基づく指導

◆ 若手生産者を対象とした現地研修会開催

- ・ 令和元年6月、9月に開催（参加者：6月13名、9月11名）
- ・ 現地ほ場での視察研修（養液土耕栽培、6月定植等）
- ・ 若手生産者との意見交換会



養液土耕栽培ほ場での研修会



若手生産者との意見交換会 11

2 担い手の定着支援

【活動結果】

◆ 新規栽培者への重点指導実施

- ・ 重点指導の結果、基本技術の習得により目標出荷量を達成!!

◆ 若手生産者を対象とした現地研修会開催

- ・ 参加者から好評価!!

「他地区の栽培状況を知ることができ参考になった」

「このような研修会を継続してほしい」

- ・ 意見交換会で若手生産者の本音を知る!!

「先進技術・省力化技術を導入したい」

「栽培の基礎的な情報を知りたい」

「親世代と技術的な方向性の食い違いがある」

- ・ 若手同士のネットワークを構築!!

研修会を機に若手間でほ場を行き来する動きあり

就農3年目のKさん（片品村）
経営形態：1ターン
経営概況：トマト30a、
冬期はスキー場でアルバイト

3 トマトの果実品質向上とGAP導入支援

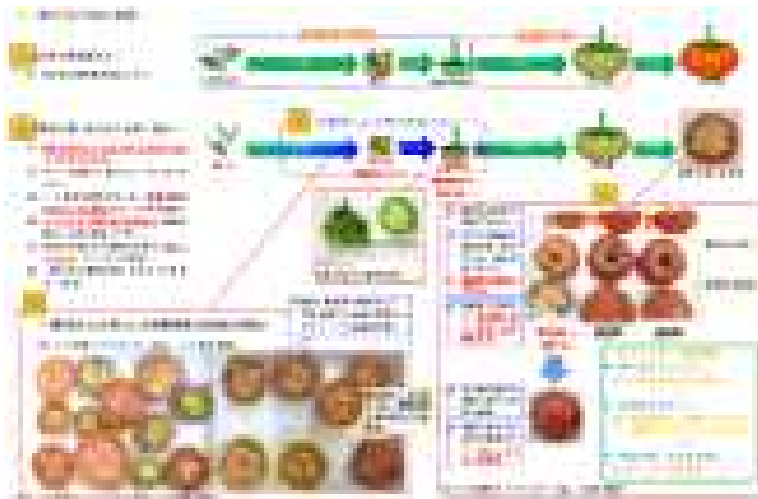
【活動経過】

◆ 障害果対策

- ・ 軟化玉対策の情報提供
- ・ 裂果対策実証ほ設置（令和2年度～）
- ・ 障害果対策チェックリストの作成、配布

◆ GAP導入支援

- ・ 講習会等でGAPの概要や必要性を説明
- ・ GAPチェックシート活用による改善項目の洗い出し



軟化玉対策資料



裂果対策実証ほ

3 トマトの果実品質向上とGAP導入支援

【活動結果】

◆ 障害果対策

- ・ 軟化玉の発生は減少!!

水管理、摘果等による樹勢維持が徹底されつつある
多発が懸念された年でも比較的少ない発生状況

- ・ 裂果対策は現在検討中

遮熱塗布剤、遮光等の効果を検証中
タブレットの動画による技術周知を予定



実証ほにおける遮熱剤塗布

◆ GAP導入支援

- ・ 改善点を洗い出し!!

高温・湿害対策、防除機洗浄、ハサミ洗浄等が要改善点

- ・ 生産者のGAP取組への温度差あり

白沢トマトセンターのチェックシート回収率が低い…

4 トマト規模拡大のための省力化技術の普及

【活動経過】

- ◆ トマト育苗自動かん水システムの導入推進
- ◆ 養液土耕栽培の導入推進
- ◆ 農業技術センターとの連携



育苗自動かん水システム



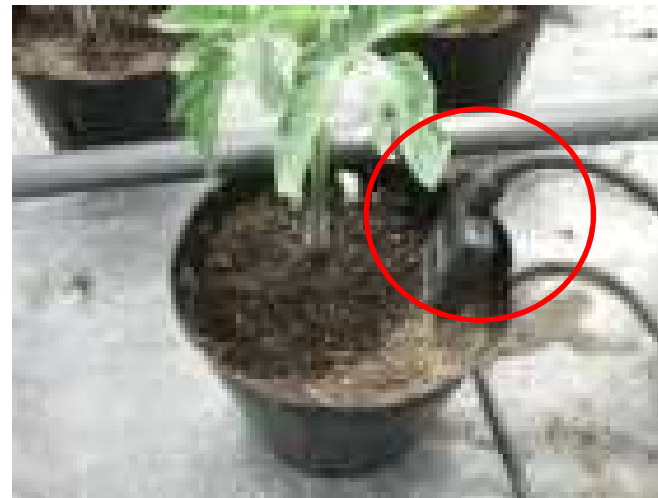
養液栽培コントローラー

「トマト育苗自動かん水システム」について

- ◆ 水分センサーで水分量を感知→自動にかん水
- ◆ 1回に3,000~5,000鉢一度にかん水。
- ◆ 通常の手かん水と比較して、かん水作業が8割削減できる。
- ◆ 手かん水に比べ苗の揃いが良く、良質な苗を生産。



日射計



水分センサー

4 トマト規模拡大のための省力化技術の普及

【活動結果】

◆ トマト育苗自動かん水システムの導入



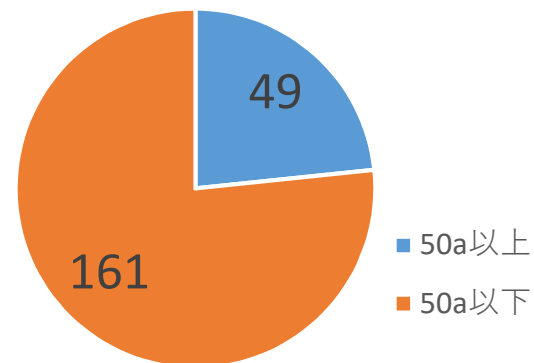
自動かん水システムによる育苗

育苗省力化技術導入農家数

全自動 15→18戸

半自動 11→13戸

規模別生産農家数



4 トマト規模拡大のための省力化技術の普及

【活動結果】

◆ 養液土耕栽培の導入



養液土耕栽培

養液土耕栽培導入農家数
2 → 5戸

少量多回数かん水で生育を
コントロール

残された課題と今後の対応

(1) トマト21億円産地の実現

- ・ 「夏美人」「尾瀬トマト」産地ビジョンの推進

(2) 新たなる担い手の確保と早期定着化

- ・ 新規栽培者募集講座や就農支援講座開催
- ・ 新規栽培者等の就農～定着までの支援体制整備

(3) 品質向上と安定出荷対策

- ・ 障害果の発生対策による品質向上と安定出荷

(4) 規模拡大のための省力化技術の推進

- ・ 育苗自動かん水システムの普及推進
- ・ 先進技術の栽培法確立と普及